



男の娘メイドのご奉仕。

『男の娘メイド喫茶』  
友人に教わり興味本位に入店した。  
目の前にいたのは少女としか思えない可愛いメイド。  
正直、だいいぶ好みの見た目だった。  
思わず釘づけになっていると店長が  
「裏メニューも有りますよ？どうです？」と  
小声で告げる。  
裏メニュー？と不思議に思っていると  
その裏メニュー表なるものを渡される。



そこには性的な奉仕と値段が綴られていた。  
目の前のこの子としていいのか？  
俺好みのメイドは恥ずかしそうに眼を逸らした。  
では、と裏メニューを頼むと店の奥に通された。  
部屋に通されるとメイドは俺の前に座り、  
上目遣いで見上げてきた。



え、えっと。  
精一杯ご奉仕  
させていただきます…。

まずは…  
おクチでさせて  
いただきます…。



お・お願いしますっ



もしかして  
新人？

はい。

すみません。

っ！

ドクッ



が・頑張らせて  
いただきますっ

んあ——  
っ……  
っ……





おおっ。  
別に特別上手いわけじゃ  
ないけど顔がかわいいい  
からイケるっ。

くちゅ

ちゅ

ちゅちゅ

すりゅすっ

すっ  
ちゅすっ  
ちゅ

これで男かあゝ。  
下に生えてるとか  
思えないな…。

oooooooo

oooooooo









ん

んくっ

飲んでる飲んでる...。

〇〇〇〇〇〇〇

ご・ごちそうさま  
でした…。  
ご主人様…。

小さな口から白い粘液が垂れていた。  
それなりに出したがほとんど飲み干してくれた  
ようだ。  
それでも俺のはまだ元気で早く続きをと  
気が昂っていた。



本当にオトコノコなのか見せて。とスカートをめくった。  
紺のスカートを口に咥えさせ、エプロンの裾も持たせた。



足の間には確かに男性の象徴が小ぶりながら存在  
しており、背徳感を強く感じた。  
気分は萎えるどころか余計に高まる。







お。湿ってきた。  
パンティーも  
窮屈だろう。  
脱がしてやろう。

ぞく

ぞく  
ぞくっ

びく

んく

びく

んうう

かりかり

くち

くち

くち

ぞく



顔のイメージ通りの小ぶりのものが出てきた。  
これを好きに弄っていいとは…。



少し考えて、部屋に備え付けられていたおもちゃに  
手を出した。







びくんっ

おっ  
いきそう？

いく？  
いくとこ見せてよ。

びくっ

びくっ  
ウウウウウウウ  
パタッ

ウウウウウ  
ウ

びく  
びく  
びく

パ  
タ





ベッドの上には開脚させたメイドくんが  
寝っ転がっている。  
もちろんふくらみのない平らな胸も見えるように  
前を開いた。

慎ましい菊座も丸見えで、今からここに自分のモノを  
入れるのか。と唾をのむ。



さてと  
もうココ準備済  
なんだって？  
早速いれるから

は…はい









よしっ  
動くぞ…っと!!

ひんっ!

んくうっ!

びくびく

びくんっ

びく  
っ!!

すちゅっ

すりゅっ!

すっ!すっ

びくびく





ん  
う

メイドくんのナカ  
気持ちいいよ。  
メイドくんは？

あ  
う  
っ

れ  
い  
い  
す  
い  
っ  
っ  
！  
っ

び  
く  
び  
く

び  
く  
ん  
っ

す  
ち  
ゅ  
っ  
！

す  
り  
ゅ  
っ  
！

す  
っ  
！  
す  
っ

び  
く  
び  
く







俺もイクっ  
一緒にイケよっ

ひんっ! !

イクっ!

イっちゃっ!  
ましゅっ!  
! ! !

ひんっ! !

びくびく

びくんっ

ぐちゃぐちゃっ!

すちゅっ

ぶちゅっ!  
すっ!すっ

すりゅっ!  
すりゅっ!

びくびく







ふー…  
なかなかよかったよ  
また来るよメイドくん

あ…  
ありがとうございます  
再びのお帰りを…  
お待ちしております…





おわり。































































はい...

おもちゃ入れて  
1人でいくところ  
を見せて。







